

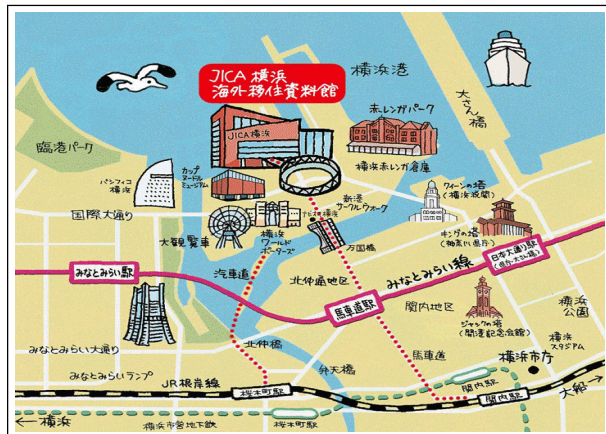
国際協力の現場を語る

JICA(ジャイカ:国際協力機構)は開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア(40歳~69歳)を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違った貴重な体験をしてくれています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日時:毎月第3水曜日 15時30分~17時
 会場:JICA横浜 1階会議室または4階セミナールームなど
 会費:無料 (どなたでも自由に参加出来ます)
 主催:NPO「シニアボランティア経験を活かす会」
 後援:JICA横浜

(やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい。
 台風等により中止となった場合は、中止された発表講演は翌月の第1水曜日の15:30~17:00に延期します。)

問合せ先:横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜3階 国際協力連絡室内
 シニアボランティア経験を活かす会 水曜会
 Fax:045-663-3263 担当:森岡 潔 (046-849-9938)
 URL jicasvob.com E-mail info@jicasvob.com



赴任国(講師名)	「タイトル」	講演概要
第147回 11月15日 (水) ボリビア (山室幸之助)		「ボリビアの大学生と電気工学の実験を楽しむ」 要請内容は国立大学電気工学科で、電気の実験指導、新しい実験棟の実験器具の提案、秋に開催される展示会(Expo)プロジェクトへの支援業務でした。実験器具・測定器具が少ない環境の中で学生たちと一緒に実施した電気の実験、展示会への出品企画から回路制作・実験ならびにロボット制作・マイコン制作指導と、小学生への理科の実験などの活動内容について発表します。
第148回 12月20日 (水) モロッコ (岡 枝理佳)		「モロッコ幼児教育の現場で、一步一步を大切に」 モロッコの幼児教育は勉強が中心で、日本のような情操教育はほとんど行われていません。教員養成校の教授・研修生や就学前教室の先生達に「遊びを通じた学び」の大切さを伝えることが活動でした。教育に対する考え方の違い、言葉の問題、様々なアクシデントに戸惑いながらも自分にできる小さなことを積み上げた1年8ヶ月のことをお話しします。親切な同僚や町の方々に支えられて過ごしたモロッコライフもご紹介します。
第149回 1月17日 (水) ネパール (丹野忠敬)		「ネパールの「空の安全」を願って」 雄大なヒマラヤ山脈が連なるネパール、自然も素晴らしいですが首都カトマンズは、一転して賑やか。そこには唯一の国際空港(TIA:トリブバン・インターナショナル・エアポート)があり、世界中から自然及び世界遺産を目当てに観光客が集まります。TIAを含めネパールの地方空港は、ネパール民間航空公社に管轄され「航空の安全」が維持されています。更なる「航空の安全」の為、ネパールの航空の現状及び航空保安施設の導入等の活動を報告します。
第150回 2月21日 (水) ミクロネシア連邦 (小林房代)		「太っている方が幸せと考えている南の島の人々への生活習慣病対策」 ミクロネシア連邦は、日本統治時代の名残で多くの日本文化が残っている南の島です。配属先はポンペイ州保健局の日本の保健所に相当する公衆衛生課、生活習慣病係での糖尿病と高血圧の外来の患者管理体制の整備でした。肥満による生活習慣病が大きな健康課題で、州政府はGo Local—伝統的な食生活に戻りましょうとキャンペーンをしますが、大きな成果はありませんでした。
第151回 4月18日 (水) ガーナ (榎本良弘)		「ガーナで360名の生徒とともに勉強してきました」 西アフリカ・ガーナ、ボルタ州ホという町にある「ホ・ポリテクニク」という学校に赴任し、その学校の電気電子工学科にて電子回路実習を担当しました。3学年合計360名の生徒を対象に、プログラミング、PLCプログラミング、電子回路シミュレーション等を指導してきました。実習用機器や部品がない中、いろいろな工夫をして入手。生徒一人一人のやる気を引き出すことを目標として活動を行いました。